

行事の意義を考える 季節の行事「花祭り」

第109号 2019年4月1日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

3月の室礼



社内の室礼では、「花祭り」お釈迦様のお言葉「天上天下唯我独尊」に絡め、
季節の花々をメインに盛られています。

独活：独りで生きる独立心を象徴しています。

空豆：「仏豆」の別称があります。

銀杏：仏様の指先の形に見立て「仏手甲」の別称も。
お釈迦様の教えを表しています。

散華：仏様を供養するため、蓮の花に見立てたもの。

「青、白、赤、黒、黄」の五色の散華は、
五常の徳「仁、義、礼、智、信」を表しています。

春の花：紫羅欄花と小手毬。紫羅欄花は、仏教の信徒たちが目指すべき
最高の境涯、阿羅漢の見立てにもなっています。





「花祭りの室礼～2019～」

4月8日は花祭り（灌仏会）、お釈迦様のお誕生日ということで、寺院では花御堂を作って、生誕仏を飾り、柄杓で甘茶をかけてお釈迦様の誕生を祝います。これはお釈迦様が花園の中で生まれ、その誕生を祝って竜王が天から香水をかけ、産湯をつかわせたという故事になっています。

[「クルーブログ」より](#)



「ホトケノザ」

4月の室礼は、お釈迦様の誕生日を祝う「花祭り」をテーマに行う予定ですが、そのためにどんなものを盛ろうかと、色々と調べていたところ…

葉の形が仏様の台座に似ていることからその名がついたと言われている

「ホトケノザ」を、盛物に入れるのも素敵だなあと考えていました。

[「自然から学ぶブログ」より](#)

「花祭り」インタビュー

今回もカグヤクルーの宮前さんに「花まつり」について、インタビューを行いました。

奥山 室礼のご説明ありがとうございました。花の名前も全然知りませんでしたが、アラセイトウ（紫羅欄花）・コデマリ（小手毬）は漢字で書くと、また綺麗な漢字表記ですね。

宮前 そうですね。室礼を始めた当初は花の名前も知りませんでしたが、室礼を始め5年が経つと、近所のどこにその花が咲くかなどもわかるようになってきました。

奥山 花の名前を覚えていけるのも楽しみの1つですね。私自身「花祭り」にあまり馴染みがありませんが、こういった行事なののでしょうか？

宮前 4月8日は花祭り（灌仏会）、お釈迦様のお誕生日ということで、寺院では花御堂を作って生誕仏を飾り、柄杓で甘茶をかけてお釈迦様の誕生を祝います。これはお釈迦様が花園で生まれ、その誕生を祝って竜王が天から香水をかけ産湯をつかわせたという故事になっているみたいです。

奥山 そうだったんですね。花祭りや灌仏会（かんぶつえ）と呼び方が違うようですが、何かあるのでしょうか？

宮前 諸説あるそうですが、「花祭り」はもともと灌仏会（かんぶつえ）、仏生会（ぶっしょうえ）などと言われていて、日本では桜が美しい季節であることから、浄土宗で「花祭り」と呼び始め各宗派に広まったとか、時代が変わり古いものに人が集まらなくなって、次第にお祭りが廃れてしまった際に、どこかのお寺で名前を変えてお祝いするようになったら人が集まるようになり、明治や大正になってから他のお寺でも「花祭り」と呼ぶようになった…などと聞いたことがあります。

奥山 様々な呼び名があるんですね。

宮前 お釈迦様は、誕生直後に七歩歩いて、右手で天を指し左手で地をさして「天上天下唯我独尊」と言われたと伝えられていますが、ちょうど桜も咲いたりして、この時期は花いっぱい春爛漫の季節で、どの花もそれ

